

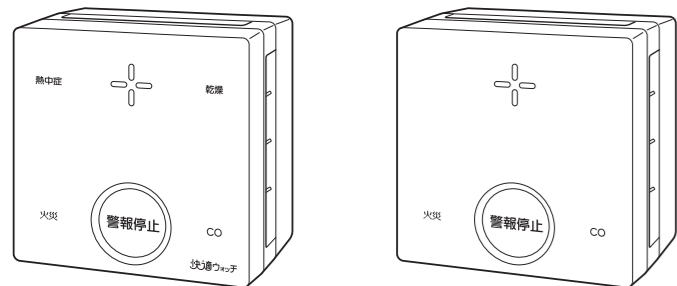
CO 一酸化炭素検知機能付き
反応式 火災 警報器

施工説明書【施工される方へ】

お客さまにこの警報器を安全に正しくご使用いただくために、この施工説明書をよくお読みいただき、指定された取り付けを行ってください。

自動試験機能付

型式名 **SC-745C / SC-345C** (移報接点付)



PLUSCO プラスコ 快適ウォッチ

PLUSCO プラスコ

1 お願いとご注意

- 警報器の取り付けは、この施工説明書に従って、指定された取り付けを行ってください。
- 取り付け終了後に、必ず動作確認を行ってください。万一、作動不良があったときは交換してください。
- 取り付け終了後に、「警報器の説明」「お客さまへの周知事項」について、必ずお客さまに説明してください。
- 取り付け前に必ずお読みいただき、お客さまや他の人々への危害や損害を未然に防止するために、必ずお守りください。注意事項は、誤った取り扱いによる危害や損害の程度を、下記の表示で区分しています。

警告 作業を誤った場合に、取付作業者および使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 作業を誤った場合に、取付作業者および使用者が傷害を負う場合または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

警告

- 分解や改造はしないでください。故障の原因となります。
- 取付期限を過ぎた警報器は、取り付けしないでください。正常に動作しないおそれがあります。取付期限は、警報器のセンサが十分な性能を発揮できる取り付けまでの期限であり、個装箱に記載してあります。
- 警報器の取り付け、取り外し、動作確認などを行うときは、安定した踏み台を使い十分注意してください。転落・転倒・落下によるケガのおそれがあります。
- 警報器を落下させるなど、衝撃を与えないでください。故障の原因となります。
- ライターの炎やタバコの煙などを使って、動作確認を行わないでください。火災や故障の原因となります。

注意

- 警報器の前に物を置いたり、取り付けたりしないでください。警報の遅れの原因となります。
- 引きひもを強く引いたり、引きひもにぶらさがらないでください。転倒や落下のおそれがあります。
- 付属の取付ねじなどを使用して確実に取り付けてください。両面テープなどで取り付けると、落下によるケガやものが破損するおそれがあります。
- 取付ベースや警報器本体の取り付けは、確実に行ってください。落下によるケガやものが破損するおそれがあります。
- 警報器に耳を近づけて、警報音を聞かないでください。聴力障害などの原因になるおそれがあります。
- 正しい取付位置に取り付けてください。取り付けがはけない場所に取り付けると、警報の遅れ、誤作動、故障の原因となります。

2 取り付け前の確認

2-1 梱包部品の確認

梱包部品の種類と個数を確認してください。

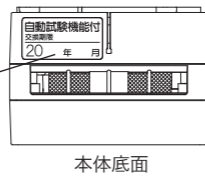
警報器本体…1個	取付ねじ (木ねじ: 3.5 x 25mm) …2本
取付ベース…1個 (本体に取り付けられています。)	
石膏ボードピン…5本	引きひも…1本
取扱説明書(保証書付)…1枚	専用リチウム電池…1個
施工説明書…1枚【本書】	
接続用リード線…1本	
接続用リード線取付治具…1個	

2-2 設置する前に

警報器本体・保証書への必要事項の記入

- ① 本体の交換期限記入欄に、交換期限を記入する。

交換期限記入欄

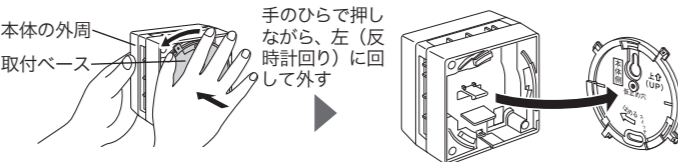


- ② 付属の取扱説明書(保証書付)にお取り付け年月日・お客さま情報・販売店情報を記入する。

取り付ける前に

警報器本体から取付ベースを取り外す

本体を持ち、取付ベースを手のひらで押しながら、左(反時計回り)に回して、取付ベースを外してください。



おねがい

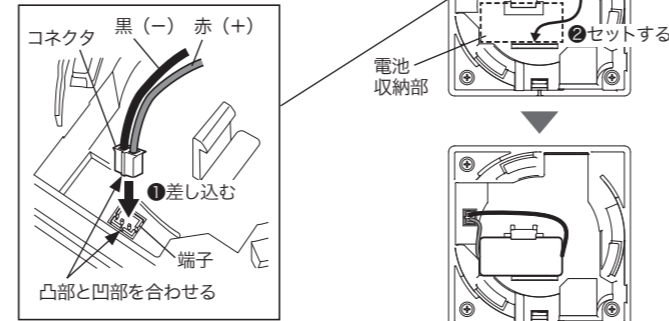
取付ベースを引っ張りながら回さないでください。取り付け時の本体落下防止の安全ロック機構が動くため、取付ベースは外れません。

電源を入れる

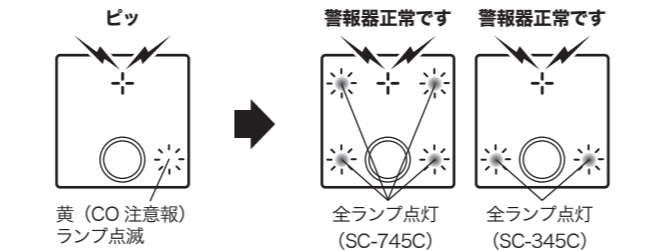
注意

- 専用リチウム電池のコネクタは確実に差し込んでください。差し込みが不十分な場合、発熱するおそれがあります。
- コネクタの接続にドライバーなどを使用しないでください。コネクタが破損したり、専用リチウム電池がショートする原因になります。
- リード線の赤(+)と黒(-)の向きを間違えないように、確実に差し込んでください。
- 専用リチウム電池の外装フィルムは電池を保護するものです。はがさないでください。

- ① 電池のコネクタを、警報器裏面の端子に差し込み(電源投入)、電池を電池収納部にセットしてください。



- ② 「ピッ」と鳴り、約30秒間、黄(CO注意報)ランプが点滅した後、全てのランプが点灯してから消灯し、「警報器正常です」とお知らせします。

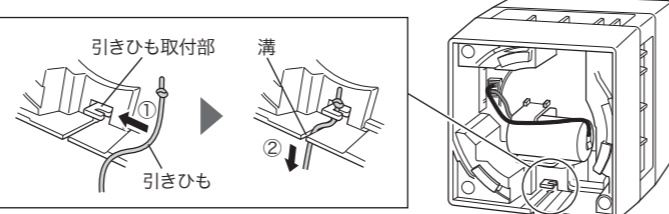


引きひもの取り付け(必要な場合のみ)

注意

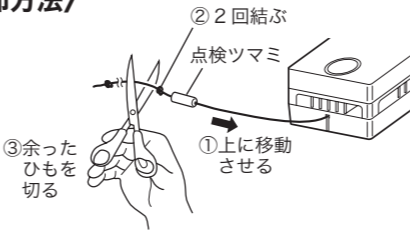
- 警報器を、壁面に取付ねじ1本で引っ掛けて取り付けの場合、または、天井面に取り付ける場合は、引きひもを取り付けしないでください。引きひもを強く引くと、本体の落下により、お客さまがケガをするおそれがあります。
- 引きひもを取り付けるとき、取付部が引かれて警報音が鳴ることがありますので、注意してください。

結び目を引きひも取付部に引っ掛けて、引きひもを溝に通す。



〈引きひもの長さの調節方法〉

- ① 点検つまみを上に移動させる。
- ② 適当な長さとなる部分で2回結ぶ。
- ③ 点検つまみの先の余ったひもを切る。



〈確認〉

引きひもを取り付けた後は、数回引きひもを引き、正常に操作できることを必ず確認してください。

2-3 取付位置の確認

※ 設置および維持基準は、政省令で定める基準にしたがい、市町村条例で定められています。各市町村によって設置場所が異なる場合がありますので、各市町村が定める火災予防条例を確認してください。

おねがい

- 設置場所は、お客さまとよく相談してお決めください。
- 快適おしらせ機能付のSC-745Cについては、直射日光が当たる窓の近くや、熱がこもる場所に設置すると、熱中症おしらせが鳴りやすくなる場合があります。設置基準を守ったうえで、生活環境に近いところに設置することをお勧めします。

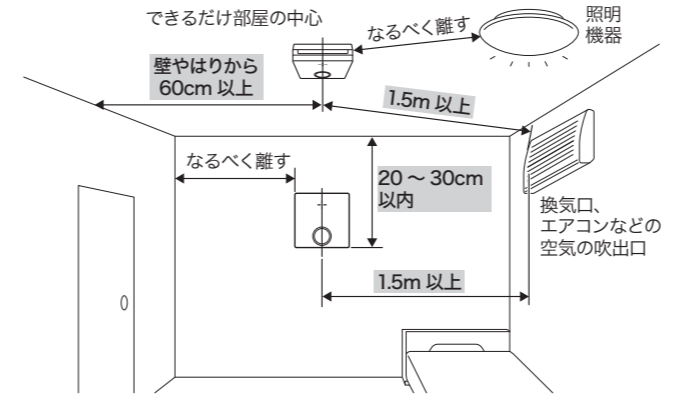
注意

正しい取付位置に取り付けてください。取り付けがはけない場所に取り付けると、火災警報およびCO注意報の遅れ、誤作動、故障の原因となります。本警報器はガス機器の設置基準及び実務指針に記載されているガス警報器の設置場所には設置できません。

正しい取付場所について

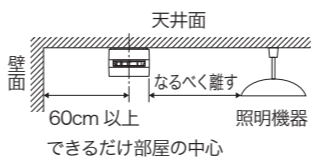
- この警報器は、以下のような場所への設置をおすすめします。居室、寝室、階段、廊下

【設置例】

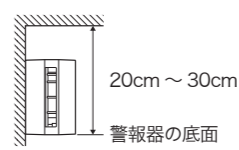


- 警報停止スイッチ(点検、警報音停止兼用)が操作しやすく、ランプが見やすい位置に取り付けてください。

- 天井面に取り付ける場合は、壁やはりから60cm以上離れた位置に取り付けてください。

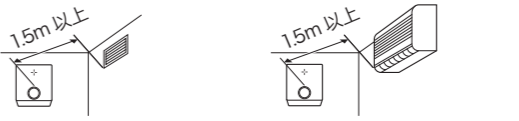


- 壁面に取り付ける場合は、警報器の底面が天井面下20cmから30cmまでの範囲にくりように取り付けてください。

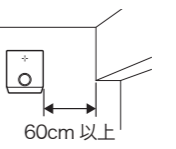


※ 住宅用防災警報器の設置基準である天井から火災警報器の中心まで15~50cmと、ガス警報器の設置基準である天井から30cm以内を満たす設置位置となります。

- 換気口など、空気の吹出口から1.5m以上離してください。



- 壁面に取り付ける場合は、できるかぎりたれ壁やはりから60cm以上離してください。

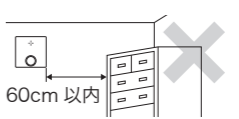


取り付けがはけない場所について

以下の場所には、絶対に警報器を取り付けしないでください。警報の遅れ、誤作動、故障の原因となります。

- 浴室内、水のかかる場所、水滴がつく場所、結露する場所。感電や電氣的故障の原因になります。
- 温度が0℃~+40℃の範囲をこえる場所。警報器としての機能を果たしません。また、誤作動の原因になります。

- タンスなどから60cm以内の場所。



- ホコリや虫の多い場所。

- 火災以外の煙や蒸気がかかる場所、車庫など。

- 屋外。屋外では使用できません。

- 換気扇、扇風機、ドアの近くやすきま風の強いところなど空気の流れが激しい場所。警報が遅れたり、検知できないことがあります。

- カーテンウォールなどで仕切られた場所。

- 振動、衝撃の激しい場所。センサの故障の原因になります。

- 燃焼器具などの排気、湯気、油煙および調理用アルコールの蒸気が直接かかる場所。センサ寿命が短くなったり、誤報の原因になります。

3 取り付けかた

取付場所の違いによる取付方法及び引きひもの取付可否

取り付けを行う面と壁面の材質により、取付方法は異なります。必ず、指定された方法による取り付けを行ってください。

ここを確認して		こう取り付けてください	
取付面	壁面の材質	取付方法	引きひも取り付け
壁面	木質・石膏ボード	壁面固定(取付ねじ2本)	可能
	石膏ボード	壁面固定(石膏ボードピン4本)	可能
	木質	壁面引っ掛け(取付ねじ1本)	不可
天井面	木質・石膏ボード	天井面固定(取付ねじ2本)	不可

警告

- 木質などの壁面に壁掛け取り付け(取付ねじ1本に引っ掛けて取り付け)をする場合は、引きひもは使用しないでください。引きひもを強く引くと、本体の落下により、お客さまがケガをするおそれがあります。
- 天井面に取り付ける場合は、引きひもは使用しないでください。引きひもを強く引くと、本体が落下するおそれがあります。

注意

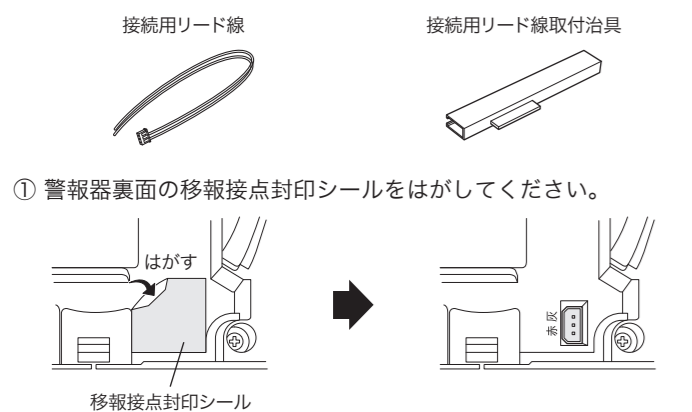
- 取付位置の材質・強度を確認し、土壁や強度の弱い合板には取り付けしないでください。
- 取付強度を保持するため、取付ねじ、石膏ボードピンは根元まで差し込んでください。万一、ゆるんだ場合は、取付位置をずらして付け直してください。
- 取り付けには、両面テープを使用しないでください。
- 天井面に取り付ける場合は、石膏ボードピンを使用しないでください。

おねがい

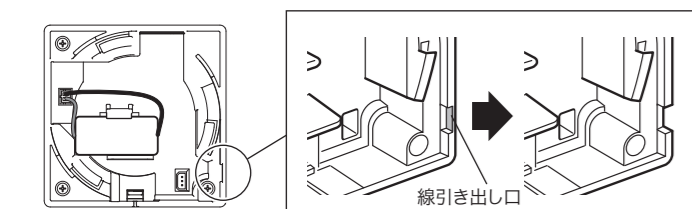
- 天井面に固定する場合は、補強材が通っている箇所に取り付けしてください。
- 石膏ボードに取付ねじで取り付けの場合、必要に応じて市販の石膏ボード用アンカー(φ3.5mm木ねじ用)を使用してください。

3-1 接続用リード線の取り付けかた

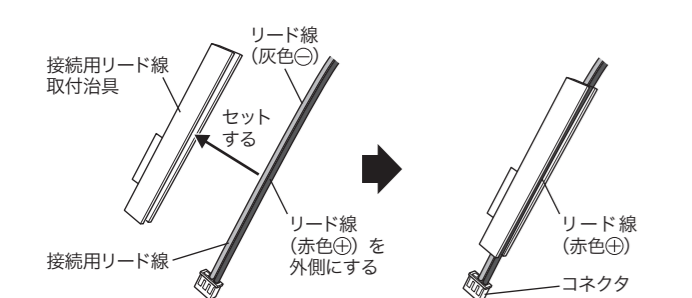
外部機器と接続する場合は、付属の接続用リード線取付治具を使って、接続用リード線を警報器に取り付けてください。



① 警報器裏面の移報接点封印シールをはがしてください。

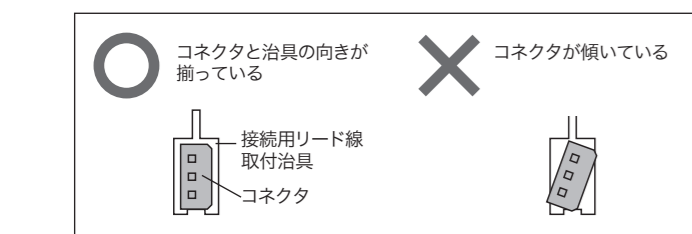


② 警報器裏面の線引き出し口を、ニッパーなどで切り落としてください。 ※ ニッパーなどの切り口はバリがないよう処理してください。リード線の被覆が破れる原因になります。

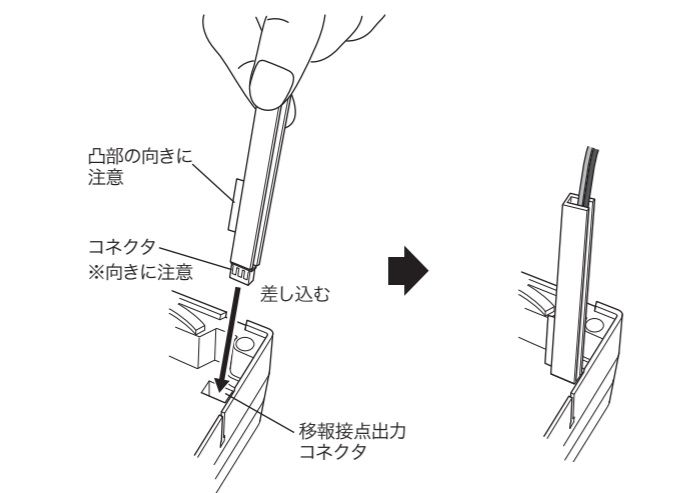


〈セット時のご注意〉

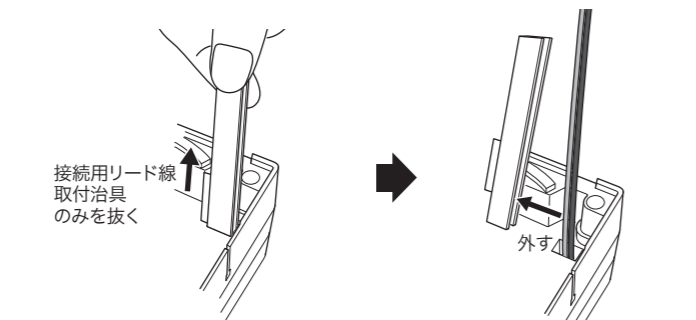
- リード線（灰色⊖）を接続用リード線取付治具の内側に、リード線（赤色⊕）を外側になるようにセットしてください。
- 接続用リード線のコネクタが、接続用リード線取付治具の端面に対して傾かないようにセットしてください。



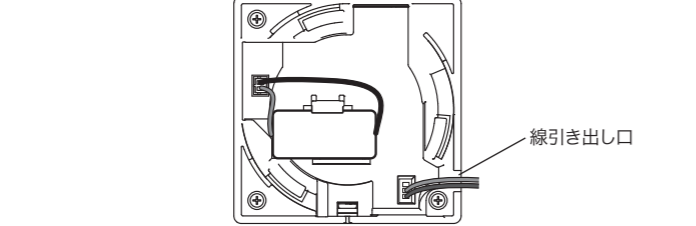
④ 接続用リード線が接続用リード線取付治具から外れないように持ちながら、接続用リード線を警報器本体の移報接点出力コネクタに、しっかり奥まで差し込んでください。



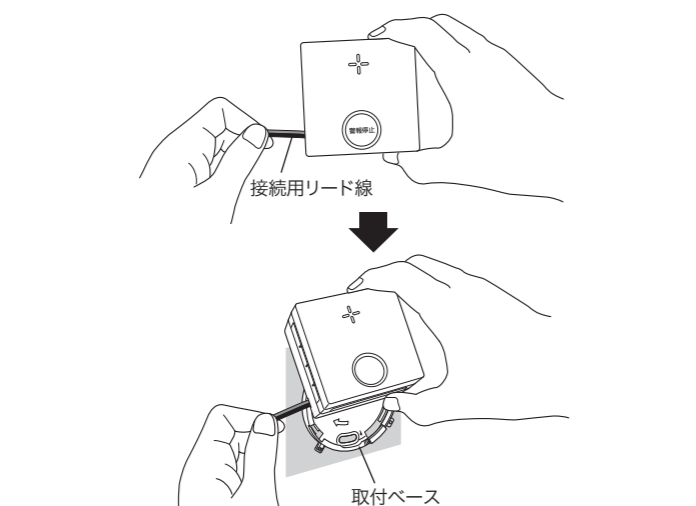
⑤ 接続用リード線取付治具のみをケースから抜き取り、接続用リード線から外してください。



⑥ 接続用リード線を線引き出し口に通してください。



⑦ 接続用リード線を線引き出し口から真横にたるみなく持った状態で、次項「3-2 警報器の取り付けかた」の手順で、警報器を取付ベースに取り付けてください。 ※ 接続用リード線がたるんだ状態では、警報器を取付ベースにうまく取り付けできません。



※ 線を延長する場合の推奨電線
AE線：φ 0.65mm 以上
VCTF線：0.5mm² 以上
※ 延長線との繋ぎ部分は閉端接続子などを使用してください。

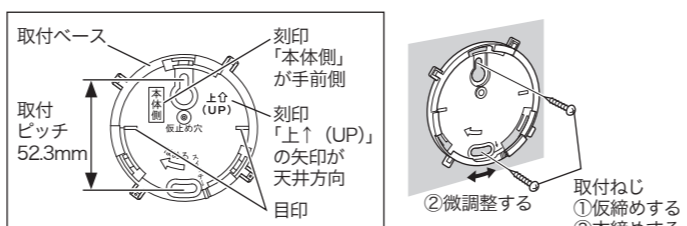
3-2 警報器の取り付けかた

壁面固定（取付ねじ 2 本）の取り付け、または壁面固定（石膏ボードピン 4 本）の取り付け

1. 取付ベースの取り付け

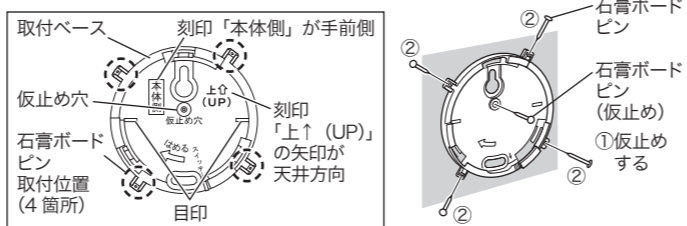
A. 取付ねじ 2 本での取り付け

- 取付ベース外周部の目印が壁面の目地などと平行になるように、取付ベースを取付ねじ（2本）で壁面に仮締めする。
- 取付ベースを左右に回転させて、取付角度を微調整する。
- 取付ねじ（2本）を本締めする。
※ 取付ベースが、壁面に密着して固定されていることを確認してください。



B. 石膏ボードピン 4 本での取り付け

- 石膏ボードピンを、仮止め穴に差し込んで仮止めする。
- 取付ベースの目印が壁面の目地などと平行になるように、取付ベースを石膏ボードピン（4本）で壁面に固定する。
※ 取付ベースが、壁面に密着して固定されていることを確認してください。

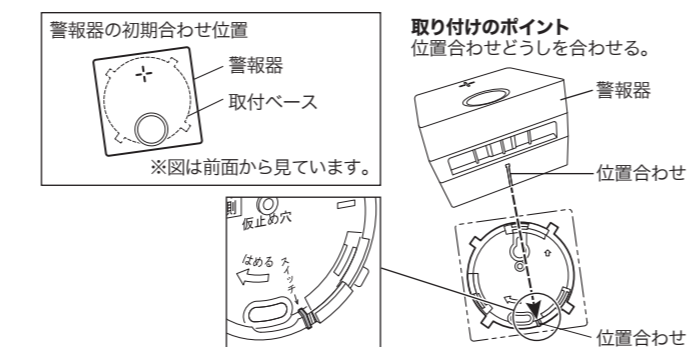


2. 警報器の取り付け・微調整

おねがい

引きひもを取り付けている場合は、警報器を取り付けた後で引きひもが引けることを確認してください。（引きひもの取り付けについては、表面「引きひもの取り付け（必要な場合のみ）」参照）

- 警報器本体を、取付ベースに対して左斜めに重ねる。



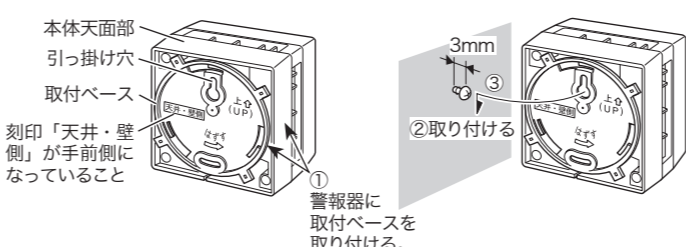
- 本体を押し付けながら、右（時計回り）に回して警報器を固定した後、少し左右に回転させて角度を微調整し、警報器を垂直位置にする。



※ 角度の微調整の際、警報器を左（反時計回り）に回し過ぎて、「カチッ」と音がした場合は、警報器が外れているおそれがあります。

壁面引っ掛け（取付ねじ 1 本）の取り付け

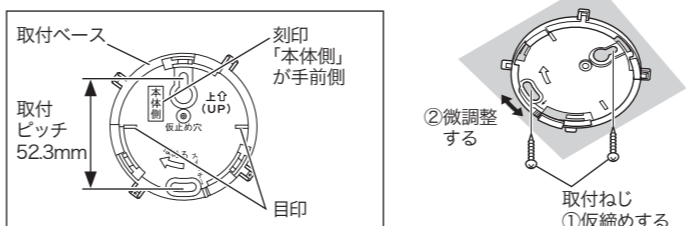
- 取付ベースの刻印「スイッチ」と警報器のスイッチの位置を合わせながら、取付ベースの引っ掛け部の手前に警報器裏面の突起（3箇所）を合わせて、取付ベースを回して取り付ける。
- 取付ねじ（付属）を壁面から 3 mm 出るように取り付ける。
※ ねじを完全に締め付けた状態から 1 回転半戻すと、約 2 ~ 3 mm になります。ねじが出過ぎると、引っ掛けたときに取付ベースの裏面が破損するおそれがあります。
- 本体の引っ掛け穴部分を取付ねじに引っ掛ける。
- 本体が確実に引っ掛かっていることを確認する。



天井面固定（取付ねじ 2 本）の取り付け

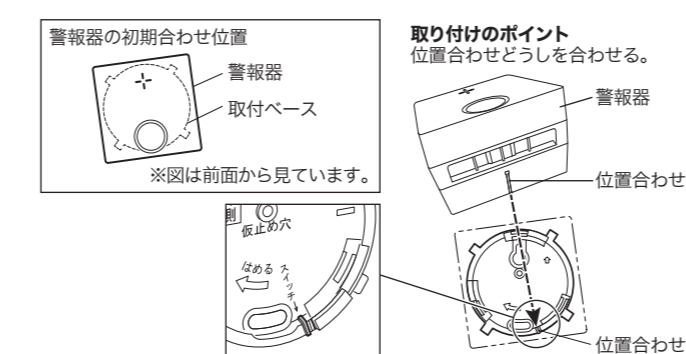
1. 取付ベースの取り付け（取付ねじ 2 本）

- 取付ベースの目印が天井の目地などと平行または垂直になるように、取付ベースを取付ねじ（2本）で天井面に仮締めする。
- 取付ベースを左右に回転させて、取付角度を微調整する。
- 取付ねじ（2本）を本締めする。
※ 取付ベースが、天井面に密着して固定され容易に脱落しないことを確認してください。

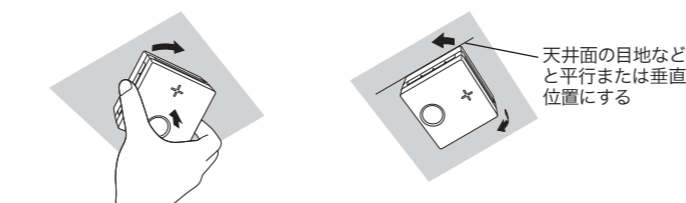


2. 警報器の取り付け・微調整

- 警報器本体を、取付ベースに対して左斜めに重ねる。



- 本体を押し付けながら、右（時計回り）に回して警報器を固定した後、少し左右に回転させて角度を微調整し、警報器を天井面の目地などと平行または垂直位置にする。



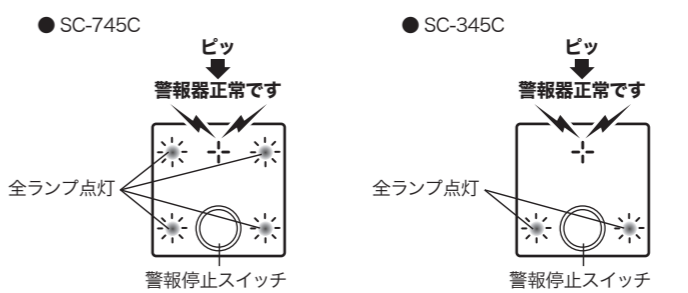
※ 角度の微調整の際、警報器を左（反時計回り）に回し過ぎて、「カチッ」と音がした場合は、警報器が外れているおそれがあります。

4 取り付け後の動作確認

⚠ 警告

- ライターの炎やタバコの煙などを使って、点検を行わないでください。火災や故障の原因となります。

- 警報器が警報動作中や警報音停止中ではないことを確認する。
- 警報停止スイッチを約 1 秒間押す。「ビッ」と鳴り、すべてのランプが点灯してから消灯し、「警報器正常です」と鳴ると正常です。
※ 以下の異常などがないかを確認できます。
 - 煙感知部の異常
 - CO 検知部の異常
 - 電源異常



外部機器と連動動作を点検する場合

- 警報器が火災警報・CO 注意報作動中や警報音停止中でないことを確認してください。
- 警報停止スイッチを約 3 秒間操作してください。「ビッ」「ビッビッ」と鳴ります。警報停止スイッチから手を離してください。
- 以下の動作をご確認ください。

動作順	音声内容	ランプ		移報接点
		赤 (火災警報)	黄 (CO 注意報)	
1	「ウー ウー カン カン カン 火事です 火事です」	点滅		ON
2	「ウー ウー ビッポッ ビッポッ 一酸化炭素を検知しました 危険です 危険です」		点滅	ON
3	無音	点滅	点滅	ON

- 約 1 分後に「ビー」と終了音が鳴り、移報接点は停止し監視状態に戻ります。
※ 1 分以内に点検を終えたい場合は警報停止スイッチを押すと「ビー」と鳴り終了します。

5 お客さまへの説明について

警報器の取り付け、点検が終わったら、お客さまに以下の説明を行い、ご理解を得てください。

5-1 警報器の説明

- 警報動作および点検結果の説明。
- 取扱説明書を必ず読んでいただくことをお願い。
- 保証書および取扱説明書の保管のお願い。
- 取扱説明書に基づく主要な機能の説明と確認。
(取扱説明書「3. 警報器のお知らせ機能について」参照)
 - 火災警報の内容（赤（火災警報）ランプ点滅、音声合成音の確認）と、警報時にとるべき処置の説明。
 - CO 注意報の内容（黄（CO 注意報）ランプ点滅、音声合成音の確認）と、注意報時にとるべき処置の説明。
 - 部屋の外にいて、CO 注意報に気づいたときにとるべき処置の説明。
 - 誤報が発生する原因と処置の説明。
 - 下記機能の説明。
 - 故障お知らせ機能
 - 電池切れお知らせ機能
 - 交換期限お知らせ機能
 - 外部機器との連動点検説明。
(取扱説明書「4. 移報接点について」参照)

5-2 お客さまへの周知事項

- 保証期間のお知らせ。
- 警報器の交換期限のお知らせ。（本体の交換期限記入欄に表示）
- 保証書を必ず読んで内容を理解した上で取り扱うこと。
- 警報器の移設禁止。（移設依頼の連絡先）
- 警報器の分解禁止。
- 引越時の処置。
- 故障・異常時の連絡先。
- 定期点検の実施。